

伊吹島のくらしの移り変わり

約 150 年前（幕末～明治時代）、現在の網元がいりこ漁をはじめる。

- ・ 1892（明治25）年…伊吹小学校ができる。

約 100 年前（大正～昭和時代）、朝鮮半島まで出漁する。

- ・ 1914（大正3）年…最初の動力船「第1号伊吹丸」が就航。
- ・ 1924（大正13）年…島で自家発電機での送電開始。
- ・ 1931（昭和6）年…電信、電話が開通。
- ・ 1945（昭和20）年…敗戦により朝鮮への出漁はできなくなる。

約 60 年前（おじいさん、あばあさんが子どものころ）

（電気）…電気が使える時間が午後6時から10時までで、相撲があるときは午後5時から使えた。

洗濯機はなく、せんたくは手作業でしていた。

（水）…自宅の井戸に雨水をためて使っていた。井戸の水がなくなると、給水券を買って共同の「イズミ」から水をくんだ。

（いりこ）…イリコは天日干しをしていた。

（その他）…荷物は背中に背負って坂道を歩いて運んだ。

診療所ができたが、専門医でなく設備不足だった。



約 50 年前（水道や電気設備、その他いろいろなものが整ってきた）

（電気）…電気導入事業で、海底ケーブルによる送電が開始される。

（水）…簡易水道が完成し、給水船により毎日 300 トンの水が運ばれるようになる。

（その他）…運搬車（バタバタ）やオートバイが増加し、荷物を背おわずに運べるようになった。

初めての鋼船である定期船「いぶき」が就航する。

小学校に海水プールができる。

約 30 年前（お父さんやおかあさんが子どものころ）

（電気）…24 時間、いつでも使えるようになった。

洗濯は、二層式洗濯機でするようになった。

（水）…海底送水管が完成し、観音寺から水道水がやってくるようになった。

（いりこ）…天日干しでなく、乾燥機で乾かすようになった。

観音寺港に伊吹漁業協同組合煮干集出荷場が完成した。

長崎や熊本をぬき、生産量日本一になったことがある。

（その他）…プールは真水プールになった。

伊吹診療所に専門の医者がかかるようになった。

伊吹中学校校舎と体育館が完成…1988（昭和 63）年

伊吹小学校が創立 100 周年を迎える…1991（平成 3）年

定期船「ニューいぶき」就航…1994（平成 6）年

わたしたちが生まれ育ったころ、今

（電気）…スイッチを押すとすぐにつく。

洗濯は洗濯機で簡単にできる。

（水）…水道の蛇口をひねるといつでも使える。

（いりこ）…「伊吹いりこ」というブランドが全国的に有名になる。

平成 30 年度の生産量は全国第 4 位。

（その他）…2010（平成 22）年から伊吹小・中学校が併設になる。

2013（平成 25）年の第 2 回瀬戸内国際芸術祭）から毎回参加。島にアート作品ができる。

2020（令和 2）年 3 月から定期船「NEW IBUKI II」就航。